

地域の方で子どもたちを育てよう！ 《小学校スポーツの変革》 《小学校運動部活動の社会体育化》

5月号からの連載特集「小学校運動部活動の社会体育化」も最終回となりました。5月号では「小学校運動部活動の現状や課題、地域の果たす役割として小学生のスポーツ環境や学校団の抱える問題、社会体育化のステップと効果」として地域団結のイメージや地域と大人の関わりを紹介し、7月号では「実際に地域団として活動しているスポーツ少年団の紹介」として2団体の指導者、代表者に聞いた現状や今後の課題、抱負などを掲載しました。

最終回となる今号では、スポ少や総合型スポーツクラブの関係者、競技団体役員、学校関係者など、社会体育化に関連する皆さんにインタビューを実施。それぞれの立場から見た期待や思い、意見など「私の描く社会体育化」をご紹介します。

【大館市スポーツ少年団本部】 本部長 渡部長兵衛さん

今まで、子どもたちのスポーツ活動を主体的に支えてきた小学校運動部活動も、少子化の影響などで団体競技のチームが組めない、好きなスポーツができないなどの問題が深刻です。

社会体育に移行となれば、指導者や練習場所の確保などの課題の解決と、活動が学校生活に影響しないように活動時間等のガイドラインを各団体に徹底させることが必要でしょう。

スポーツ少年



育成母集団がカギ
という渡部本部長

団の活動は、地域特性を生かし、様々な活動を通じて子どもたちの健全育成を図ることが大きな目的であり、スポーツに限らず、野外活動やレクリエーション、社会・文化活動など幅広く、また年齢の幅が広いという特徴を生かしながら自主・自立的に行うことが重要であります。

各団の運営は、地域を巻き込んだ育成母集団を形成するということが極めて重要で、保護者を含め、様々な分野の地域内指導体制が望まれます。学区ごとに規模の大小があり、団の形態は多様となりますが、地域のバックアップは欠かせません。

各団の育成・活動については今まで以上にサポートしながら、円滑なスポーツ少年団活動を後押しします。

【大館市バレーボール協会】 会長 田中 良男さん

スポーツ少年団は、昭和37年に「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを」スポーツを通じて青少年のからだところを育てる組織を地域社会の中に」という願いから創設されました。

近年の少子化などの影響で発生している様々な問題解決のために、その原点に帰って、子どもたちに地域を基盤としたスポーツの場を提供し、計画的・継続的に子どもたちを健全に育成しなければなりません。

当協会もスポーツ少年団を立ち上げ、小学1～6年生の約40人の子どものために元気に頑張っています。上達している子どもたちの姿を目にするのは嬉しいもので、今後もバレーボールをやりたいという要望に応じていきます。



バレーボール指導者の皆さん
(右から2番目が田中会長)



バレーボールスポ少の練習風景

【総合型スポーツクラブ ブレイジングトルシダ 大館】 BTO理事長 小棚木政之さん

BTOを設立した目的の一つは、学校活動が社会体育化された際の受け皿となることでした。多目的・多世代での活動を基本とする総合型地域スポーツクラブは小・中学生が活動するのに適した組織の一つであり、現在、サッカーとバドミントンの2競技で小・中学生94人が活動をしています。

社会体育化は、競技の選択肢が増えるなどの利点がある一方、指導者と保護者の協力体制の確保や指導者の都合を考慮しながらの活動日・時間の確保などの課題も多くあります。

スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブ、各競技団体が受け皿を分担し、子どもたちが様々な種目で活動できるように場所と時間の設定、活動場所への送迎の負担軽減のための移動手段の整備など、子どもたちのスポーツ活動を支える社会のシステムを構築する必要があります。



BTOサッカーの練習風景

問い合わせ

スポーツ課体育係
☎ 43-7136
学校教育課学事係
☎ 43-7112